

学友報知

デジタル三月号

発行所
群馬県太田市八幡町16-7
県立太田女子高等学校
新聞部
電話(太田)(22)6651番

桐生の森林に新しい価値を

桐生市にある合同会社バリユー・フォレストの代表社員である武井沙織氏にお話をうかがった。



この写真以外の写真はすべて武井沙織氏に提供していただきました。

★大学卒業まで

幼少時は山の近くで育ち、近所の小川で遊ぶこともありました。大学は農学部を選びました。実学は社会に運動して学問が変わってゆく部分があり、学科名も変わってゆきます。かつて日本で盛んだった林業が衰退するのに合わせて、他大学も林学科という名前をどんどん変えていった狭間の時代でした。大学を卒業する頃は就職の大氷河期時代で、就職先がほとんどないという状態でした。その頃大きな話題だったのはアメリカで起きた

★青年海外協力隊の経験

9・11の同時多発テロと、バミヤンの遺跡がタリバンによって破壊されたこと。世界ではこんなことが起きていたのかと思ってきました。大学卒業後は桐生の実家に戻り、海外に興味があったことから、青年海外協力隊に応募しました。

★ニカラグアでの活動

ニカラグアは中米にある国です。ニカラグアは日本から遠いと思うでしょうが、狂牛病が騒ぎになった時期はニカラグアで

《武井沙織氏 略歴》

- ・昭和53年生まれ。群馬県桐生市立西小学校出身。群馬県立前橋女子高等学校卒業、岩手大農学部農林水産学科に進学。
- ・大学卒業後は青年海外協力隊に応募し、中米のニカラグアで2年間暮らす。
- ・帰国後、一般社団法人海外林業コンサルタント協会に入社。パキスタン、ケニア、ルワンダ、中国、フィリピン、イラン、マラウイ、モンゴル等で専門家として仕事に勤しむ。
- ・2021年に独立し、合同会社バリユー・フォレストを設立。

は狂牛病が流行していなかつたので、牛タンを日本に輸出していたこともある国です。そこで2年間生活し、日本の良さも悪さも分かったように思っています。青年海外協力隊として任地に配属された日本人は、私で4代目。1代目から3代目の人たちが、日本人はこの豆の栽培のために普及をしたりもして、現地に入つてきておいてくれるの、現地の人たちから受け入れてもらえたように思っています。焼畑農業が盛んな土地です。標高400m以上は森林を伐採してはいけません。イをしていて、そこ



フリホーレス畑 (ニカラグア)

つかり栄養をとりましょうという料理講習会もしました。アメリカの Peace Corps (注:アメリカの青年海外協力隊のようなものが実施している環境教育や、JICA (注:独立行政法人国際協力機構。日本の政府開発援助を一元的機関として上国に実施する機関)のプロジェクトの見学もさせてもらい、積極的に支援について勉強しました。



NGO との市内緑化 (ニカラグア)

プロジェクトを見つけたための調査も行いました。入社3年目のパキスタン、ケニア、ルワンダでは言われたことだけで一杯のプロジェクトでしたが、入社4年目以降の中国、フィリピンでは現地のNGOに支援し、徐々に国際協力ができていくという実感を得られるようになっていきました。イラン、マラウイ、モンゴルでは専門家としてばりばり仕事をこなしました。

年間1600mmであるのに対して、モンゴルは4000mmで、砂漠地帯は2000mm以下。北の方に行くと森林があるけれど、南部にむけて砂漠になっていきます。山羊や羊を放牧して、夏は毛刈りをして、冬は現地に行けないくらい寒いんです。ゲル(注:モンゴルの遊牧民が暮らす移動式住居)の中で調査をしました。貧しい国というわけではなく、遊牧民でもスマートフォンは持っている。過放牧による草地の荒廃が問題で、モンゴルの少ない降水量でも生える植物を植えるを試みしました。カナガラという、2mくらいの株立ちするような灌木を植林したら、家畜の飼料にしたらどうかというプロジェクトです。粒状のペレットに加工することも検討していました。マラウイは私の渡航した国の中で最貧国でした。乾季は長い

★一般社団法人海外林業コンサルタント協会の経験
ニカラグアから帰国し、海外での仕事をしたいと考えていたところ、大学の先輩の声掛けにより入社が決まりました。JICAの自然環境保全の活動として、開発途上国内などで植林だけでなく環境保全に関する様々な支援事業などを行いました。林野庁のプロジェクトファインディングという、日本の技術を海外で活用するため



ゲル内での調査 (モンゴル)

ですが、雨季には結構降る(注:年間降水量は800mm)から高い木もあります。でも大量に伐採してしまっている。首都なの炭で料理してました。JICAのプロジェクトは国と国との契約で実施するから大規模な取り組みができます。まず広域での森林の調査をし、実際にどういう活動が必要かを個別の専門家が現場、技術協力プロジェクトをコンサルタントが継続してつくります。プロジェクトを普及させるために、有名な現地のアーティストの方にテーマソングを作ってもらったり、ロゴや映像を作成したり、テレビやラジオで広報活動をしました。ただ森林を植えるだけではなく、蜂蜜づくりもしました。1年で取れるから喜ばれるのです。違法に炭作りをする人は武器を持っていて、軍隊



ナラ林の間を羊、山羊が歩いた跡が見える（イラン）

にお願いして取り締まりをしてもらいました。炭を作る窯を作り、そこで炭をつくれれば合法にしたりもしました。

イランは地中海性気候で冬は雪が降りますが、夏は雨が降らず乾燥しています。公用語はペルシャ語で、国の言語をしっかりとっています。山羊や羊の放牧をし、森林には灌木が多いです。プロジェクトは、国レベル、州レベル、町レベル、住民レベルなどで成果を求められま

いた。周知活動がとも重要でした。イランの女性は自由にお金を使いづらく、クレジット（注：無担保で小口の融資をする金融サービス。国際協力のアイテムのひとつである）も活用していません。プロジェクトには様々な方が関わっています。JICA事務所職員や、大使館、現地の公務員、通訳、村長、住民たち

目指していましたが、自分や周りの人の生活と人生を優先する場面が多かったです。仕事でも、子供が貧乏になるのを防ぐために熱心するのがあります。良い面と悪い面があるけれど、生活を中心に柔軟に仕事をしていると思います。

イランには10年以上関わりましたが、コロナ禍でイランにはいられなくなり、リモートワークで今後の生活や仕事について考えるようになりました。日本の地方にも課題が山積しているので、地元である桐生の梅田の山林で資源の活用や事業化をしようと、起業を検討するようになりました。



女性によるマイクロクレジット活動（イラン）

★合同会社バリユー・フォレストの設立
海外に行つて思ったのは、人も資源で人口が多い方がやっぱり国の力が強いのかなということ。日本は人口が多いです。日本の森林では中山間地域（注：平野の周辺部から山間部に至る、平坦な耕地が少ない土地）が一番多く、国土の約7割を占めています。先進国の

でも森林は多い方は、山の種類が多いのはスギやヒノキです。中山間地域というのは、森林の多面的機能の発揮に重要な役割を負う地域です。景観も美しく文化や歴史も豊かです。現存している豊かな山村資源を活かしていけない状況にあります。

では、森林をどのように活用するのが良いでしょうか。木材の出す努力が必要になります。価格は昭和55年がピークでその後どんどん落ちていきます。2022年はコロナ禍でウッドショック（注：ウツドの価格が高騰）がありましたが、それは例外的なことで、この先いつし、新しい時代や様々回復するのは分らないと思います。現在は、木

に取組んでいます。お茶、柚子、山椒など、元々ある植物を資源として利用しています。それを活用する企業を増やしているところ。マーケティングと営業、山椒を食べに来る鹿との戦いなどが、今の課題です。今までは古民家だったところを事務所にしてもらい、一緒に活動する仲間たちが増えてきています。地域の人たちのご縁を大事にし、地域に根付いた会社になりたいです。山村作業は生涯現役が可能で、多様な世代が関わりたいと思います。流行や時勢はうつろいますが、時代に左右されない必要なのが森林にはあるから、やりがいがあります。課題はたくさんありますが、大切に考えること、パッションです。誰かが情熱を持って動かしていくということが、本当の解決につながるかと実感しています。

今までの人生でいろいろな経験をしてきましたが、無駄はないなと感じています。大学卒業の頃は就職氷河期で、なぜ就職できないのかと悩んだりもしましたが、今になってみると一般の企業に就職しなくて良かったです。海外に行つてみて

本の常識は世界の常識ではないということ。常識というものは、その場・その文化でしか通じないものと分かりました。森林は気候や土壌、地形で異なることや、木材だけでは無い林業の可能性に気づくことができた。海外では終身雇用ではなく、ジョブ型雇用も多いです。多様な人生の考え方に会えて、生活と仕事の関係は柔軟で良いのだと思いました。様々な国の多様な森林に触れ、その国の事情を肌で感じることで、固定概念から解放されて、周りを理解し、信じて待つことが重要だと学びました。

（聞き手 宮）



山村の豊かな自然・水（桐生市梅田）



梅田茶生産組合との協働による和紅茶の製造



柚子を使った商品の開発（柚子うどん）

新聞部 部員募集中！！

文系・理系、学年問いません！！